

「教化と生成」を可能にする社会科教材開発 ～パウロ・フレイレの「意識化」に注目して～

1 はじめに：パウロ・フレイレの教育理念の特色と実践上の課題

発展途上国における非識字者を対象とした「リテラシー教育」で著名なパウロ・フレイレ (Paulo Freire 1921-1997) は、ブラジルの教育者・思想家である。その活動と研究は主に批判的教育学の理論に基づいており、その特色は、以下のように整理できる。

- 意識化**：フレイレは、教育の目的を単なる情報の伝達ではなく、学習者自身が社会の不正や抑圧を認識し、変革を促進することとしている。意識化は、個人が自分の現実を批判的に分析し行動を起こす能力を育むプロセスである。
- 対話**：フレイレは「対話」を重視し、教育者と学習者が互いに学び合う双方向的なコミュニケーションを推奨している。フレイレは権威主義的な教師と受け身な生徒像を否定し、対話を通じて知識を共同で構築するアプローチを展開している。
- 課題提起教育**：フレイレは従来の教育が、教師が知識を生徒に「預ける」ことに陥っていることを批判し、その教育を「銀行型教育」と名付けた。に対して、学習者が主体的に知識を形成するプロセスを重視した、教育を解放と自由の手段と見なす教育を「課題提起教育」と名付け、その実現を「意識化」と「対話」の弁証法の発展に求めた。
- 社会的正義と教育**：フレイレの教育理論は、教育が社会的変革のツールであるべきという信念に基づいている。フレイレは教育を通して抑圧構造を解放し、社会的平等を促進することを主張した。
- 文化的な文脈の重視**：フレイレは、教育活動が文化的な文脈に根ざして行われるべきだと強調した。学習者の文化、経験、背景を考慮することで、より効果的な教育を実現できると考えた。

「学び」に関する5つの考え方
※藤原さと (2020) を筆者加筆

	永続主義	本質主義	進歩主義	実存主義	社会改造主義
「教える」 「学ぶ」についての考え方	伝達	伝達	構成	構成	構成
「生徒」についての考え方	否定的見解	否定的見解	肯定的見解	肯定的見解	肯定的見解
「知識」についての考え方	知識は永続的なもの	知識は利害のための準備	自ら意味合いを見いだすもの	自らの人生を豊かにするもの	社会的変革を促すもの
「知ることの価値」についての考え方	人間的合理性の追求	将来への準備	人生を彩る経験	自分を知り意味のある人生を送ること	社会変革
例	ヨーロッパ中世史 (-15C)	プロイセンの国家主義教育 (-18C)	ルソー「エミー」(18C)	サルトル「ローラン」(20C)	パウロ・フレイレ「デュイー」(20C)

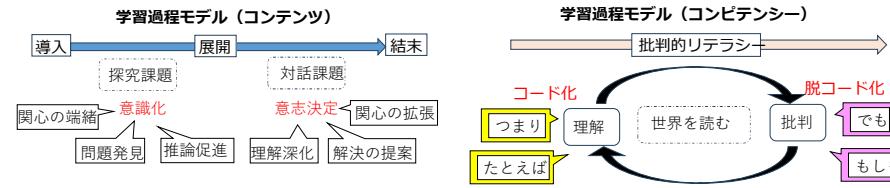
パウロ・フレイレの教育理念の特色は、「学び」に関する5つの考え方 (藤原2020) からもよくわかる。永続主義、本質主義は、教師の伝達的行為に着目する立場であり、受動的な学び方が重視される。一方、進歩主義、実存主義、社会改造主義は、学習者の知識の構成的行為に着目する立場であり、能動的な学び方が重視される。中でも、パウロ・フレイレの立場は社会改造主義に分類される。その実践上の課題は、「学習者の自己解放を導く、主体化の論理」 (佐藤2016) を具現化する授業デザインのあり方が不明確であることである。つまり学びの個人的側面と社会的側面をどのように弁証法的に関係づけ、学習課題、教材、評価として具現化する方法が不明確なのである。

2 単元構想の視点：「教化と生成」を可能にする学習過程モデル

本研究では、パウロ・フレイレが提案する「課題提起教育」を具現するために、佐藤 (2020) による授業デザインの見出しに基づき、単元の構想と学習課題、教材の開発を行う。佐藤 (2020) は以下4つの視点でパウロ・フレイレの理念に基づいた授業デザインを提案している。

- 科学的知識と生活認識を接続する教材
- 2つを接続する発問(生成的問い合わせ)
- 対話する集団の質的発展
- 学習者の批判的認識の発展であり、学習者の生活改善の過程であり、学習集団の発展という重層的な意味を含むカリキュラムの計画と更新

本研究では、佐藤 (2020) の提案する授業デザインを具体化するために、以下の学習過程モデルを構想した。考慮したのは「教化」=理解/探究と「生成」=批判/意志決定の往還である。



3 単元構想、教材開発の実際：4年社会科「大和川のつけかえ」

1時 学習内容「今と昔の大和川：地理的条件」

探究課題：大和川の様子を調べよう「資料：奈良県～大阪府の大和川 171の支流」

対話課題：大和川の洪水は人災か、天災か

学習の重点：洪水は原因に注目すればどちらにも解釈できる。

2時 学習内容「大和川つかえが決算までの経緯：歴史的、社会的条件」

探究課題：大和川のつけかえが決まるまでの流れを調べよう「資料：旧川、新川の村の訴えと幕府の対応」

対話課題：なぜはじめの訴えから43年後につけかえが決まったか

学習の重点：大和川のつけかえは、つけかえ費用が新田開拓で相殺されることが決め手である。

3時 学習内容「大和川のつけかえ工事：社会的、経済的条件」

探究課題：「もっこ」を使って土を運ぼう「体験的活動：15分間でどれだけ砂を運べるか」

対話課題：なぜ大和川のつけかえは、8ヶ月で完成したのか

学習の重点：土をほる、運ぶ作業だけでも大変である。川底を掘らなくてよいコースが選択されている。

4時 学習内容「大和川つけかえの影響：環境的、社会的、経済的条件」

探究課題：つけかえ後のこまつこと、よかつたことを調べよう「資料：旧川、新川の問題と新産業」

対話課題：大和川のつけかえを評価しよう

学習の重点：旧川、新川とともに課題は発生した。しかし旧川の課題は転換したり解決できたりするが、新川の課題は転換、解決が難しいこと。

5時 学習内容「大和川のつけかえの再検討：環境的、社会的、経済的、政治的条件」

探究課題：つけ替え案 A～D案のよさと問題点を調べよう「資料：つけかえ後の影響予想図」

対話課題：つけかえの最良案はどれか

学習の重点：幕府の立場に基づいたつけかえの決定と、現代の民主的な立場から考えた決定に違いがうまれるのか、大和川のつけ替えの3案とつけ替えない1案の比較検討を行う。

4 結果

「教化」=理解/探究と「生成」=批判/意志決定の往還を考慮した学習課題、教材の効果を分析するために、児童の「関心」や「理解」「批判」が顕著である第4時 学習課題「大和川のつけかえの評価」に関わる意見をAI分析を用いて要約した。

○関心

児童は、大和川の付け替えによる洪水の減少や新たな船運業・木綿栽培の発展に注目しつつ、川の流れが変わることで発生する水不足や米不足、村の分断による生活への影響に懸念を示している。利益と損失のバランスに関心を持っている。

○理解

児童は、大和川の付け替えによって洪水が減り、新産業が生まれるなどの利点があったことを理解しているが、一方で水不足や米不足の問題、村の分断といった課題も発生したことを学んでいる。良い面と悪い面の両方が存在することを理解し、バランスが重要だと感じている。

○批判

児童は、大和川の付け替えによる洪水被害の減少や新産業の発展を評価しつつ、その一方で水不足や村の分断といった問題が生じたことにも注目している。特に、どちらの選択にもメリットとデメリットがあり、全員の利益を両立する難しさを批判的に考えている。

4時 資料



5時 資料

